

# KSU海外ジョブトレーニング体験談

小川 佑哉  
Yuya OGAWA

九州産業大学 情報科学部 社会情報システム学科  
Department of Social Information Systems, Faculty of Information Science, Kyushu Sangyo University

2009年9月、KSU海外ジョブトレーニングに参加しました。事前学習を経た後、オーストラリアに1月半ホームステイをしました。最初の4週間で現地大学での語学研修、残りの2週間でインターンシップを行いました。帰国後に事後学習を行っています。

私がこのKSU海外ジョブトレーニングに応募した理由は、これまでの大学での英語学習の成果を試してみたかったことと、このチャンスを活かしてこれからの就職活動のときなどでより大きなチャンスをつかみたいと考えたからです。

私たちが語学研修を行ったのはシドニーにあるマッコリ大学という大学でした。語学研修期間中、午前中はそれぞれ事前に受けた試験での成績ごとにクラスに分かれ、多くの海外の学生たちと講義を受けました。彼らとの交流は私たちにとって、とてもいい刺激になりました。また、午後の講義ではジョブトレーニングのメンバーと同じクラスでオーストラリアについて学びました。どちらの講義もとても興味深く、同時にとても勉強になりました。

大学での4週間はあっという間に過ぎ、インターンシップが始まると、私たちはそれぞれ事前に決まった現地の企業での研修が始まりました。

当初、私は現地企業でのインターンシップ先にIT企業を志望していましたが、私の英語力不足と、これまでIT企業を志望する学生がいなかったこともあり、最終的に現地のNPO法人であるNational Trust of Australia(NSW)で働かせていただくことになりました。

私のNational Trustでの主な業務はデータベースへのドキュメントのアップロードでした。単純な作業でしたが、コミュニケーションがすべて英語ということもあり、序盤はかなり手間取ってしまいました。アップロードのほかには、そこで使っているサーバ説明を受けたり、ギャラリーにパソコンを設置したりしました。

結果として、希望の業種ではありませんでしたが、全体を通して見ると、とても貴重な体験ができたと感じています。

海外ジョブトレーニングには、英語と英会話のI～IVの単位と2年期末に行われるTOEICまたはTOEIC-Bridgeで一定以上のスコアを取ると応募することができます。おそらく大学在学中ぐらいしか、このような機会はないでしょうし、休日や大学の午後の講義がない日はシドニーの観光も行えるので、そういうところでも楽しめると思います。1、2年生の方はぜひ狙ってみてもら

えるとうれしいです。



写真1: シドニーオペラハウス



写真2: 業務中の筆者